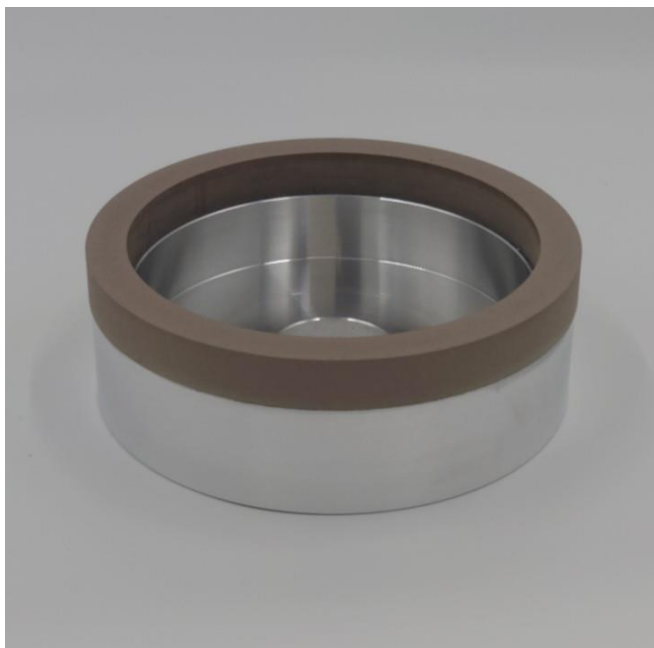
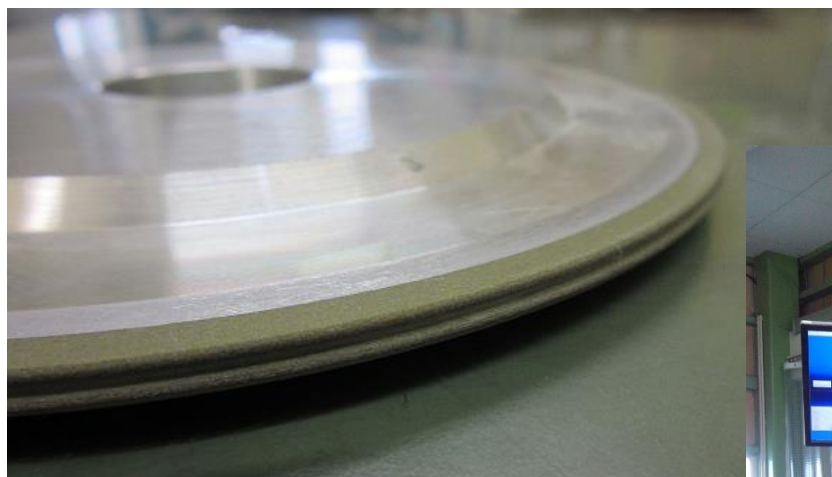




(株)東海サイエンス

環境経営レポート

2023年度版(対象期間 2023年4月~2024年3月)



作成日 2024年 9月 1日

事業概要

1. 事業所及び代表者名

株式会社 東海サイエンス

代表取締役社長 落 合 崇 央

2. 所在地

静岡県菊川市西横地270

3. 環境統括責任者名・連絡先

環境管理責任者 落 合 崇 央
電 話 0537-35-2860
FAX 0537-35-3206

4. 事業の内容

ダイヤモンド工具の製造及び販売、チップソーの販売

5. 事業の規模

活動規模	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
生産量	個	12,422	13,426	12,717	14,524	14,765	13,977
売上高	百万円	136	143	133	151	154	153
従業員	人	13	14	15	15	15	15
事務棟床面積	m ²	227.67	227.67	227.67	227.67	227.67	227.67
工場他床面積	m ²	233.05	233.05	233.05	233.05	302.95	319.86

(注1) 売上高は全売上高から賃貸料収入を減じた金額

(注2) 生産量はドレス、ホイール製造、およびホイール修理の総数

6. 対象範囲

当社は全社・全活動（事業活動及び製品・サービス）を対象範囲とする。

環境経営方針

〔基本理念〕

当社は、人々の生活基盤となる住宅・食品・自動車・製紙等の産業に欠かせないダイヤモンド工具を製造・販売する企業として、工場周辺の美しい田園・川・海・空気の保全に留意し、商品のライフサイクル（製造・販売・使用・廃棄）にわたる省資源・省エネルギー・リサイクルを目指すことで、顧客および社会に貢献します。

〔行動指針〕

- 材料に応じて製造工程を集約化し、ダイヤモンド工具の加工工程で発生する鉄・アルミの切り粉をリサイクル回収可能な資源として分別し、回収業者による資源の再利用に協力します。
- 労働環境を改善するため、研磨室および接着・出荷エリアにエアコンを設備します。作業エリアをカーテンで仕切ることで省電力化を目指します。
- 製造工程の見直し、設備の改善および更新により電気使用量を削減します。
- 顧客に、使用済みダイヤモンド工具の本体（鉄・アルミ部分）を再利用するサービスを提供することで環境に配慮し、さらに廃棄物排出量の削減に努めます。
- 金型の冷却水を再利用します。
- 化学物質の適正管理に努めます。
- 環境経営の継続的改善を推進します。
- 環境関連法規制およびその他の規制を遵守します。
- 全社員に環境に関する教育を行い、環境保全の意識を高めます。
- 環境活動レポートを社内外に公表し、社会とのコミュニケーションを積極的に行います。
- SDGsを理解し、家庭及び職場において出来ることから実践して行きます。

制定日 2013年4月1日

改定日 2024年4月1日

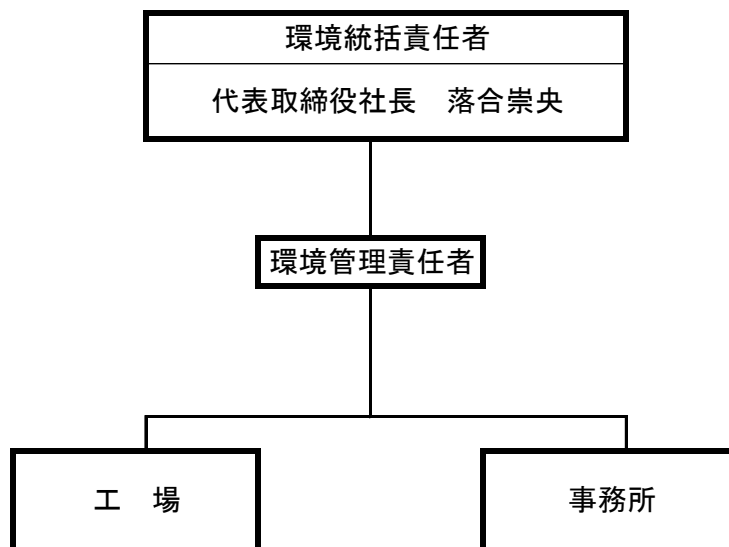
株式会社 東海サイエンス

代表取締役 落合 崇央

環境管理活動の実施体制

対象組織：株式会社東海サイエンス

対象活動：ダイヤモンド工具の製造及び販売、チップソーの販売



役割・責任及び権限

役職名	役 割
環境統括責任者	環境方針の策定。 環境管理責任者を任命する。 資源（人材・資金・設備・情報）の用意。 一般教育の実施。 システムの総合評価と見直しを行う。
環境管理責任者	環境管理システム全体の立案・運用・継続的維持。 環境文書の作成・管理。 実施状況を代表者へ報告する。 問題点の把握と是正の実施。
全従業員	環境目標実現に向けて取り組む。 環境関連法規等の遵守。

環境経営目標

1. 環境目標

項目	単位	基準年	目 標 値				
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
二酸化炭素排出量	Kg-CO2/売上高	24,083	前年比-0.1% 24,059	前年比-0.1% 24,035	前年比-0.1% 24,011	前年比-0.1% 23,987	
	電力	KWh/売上高	39,577	39,537	39,498	39,458	39,419
	ガソリン	L/売上高	1,612	1,610	1,609	1,607	1,606
廃棄物 排出量	産業廃棄物	t/売上高	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84
	一般廃棄物	t/売上高	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35
水使用量	—	196	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	
ダイヤモンド工具の再利用 の継続(付加価値品)	—	継続	継続	継続	継続	継続	
化学物質の適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	

※ 2023年度は運用期間(2023年4月1日～2024年3月31日)

※ 原単位補正は売上高2022年＝1.54億円を基準とする。

※ 購入電力の排出係数(調整後)は0.388kg-CO₂/kwh(2021年度:中部電力ミライズ)

2. 運用期間実績

項目	単位	実績値	目標値	実績値	補正後	評 価	
		2022年度	2023年度	2023年度	2023年度		
二酸化炭素排出量	Kg-CO2/売上高	37,088	前年比-0.1% 24,059	28,604	18,695	○	
	電力	KWH/売上高	60,949	39,537	59,032	38,583	○
	ガソリン	L/売上高	2,483	1,610	2,457	1,606	○
廃棄物 排出量	産業廃棄物	t/売上高	1.29	0.84	0.69	0.45	○
	一般廃棄物	t/売上高	0.54	0.35	0.51	0.33	○
水使用量	—	302	適正管理	266	適正管理	適正管理	
ダイヤモンド工具の再利用 の継続(付加価値品)	—	継続	継続	継続	—	継続	
化学物質の適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	—	適正管理	

注) 当社の目標未達成に対する是正措置の運用基準は、評価結果が“×”の項目とする。

(但し、二酸化炭素排出量は電力・ガソリンの合計が目標未達成の場合是正処置とする。)

※ 実績値は原単位補正前を示す。

※ 水使用量は使用量が少ないため「適正管理」とする。

※ 原単位補正は売上高1.53億円

環境経営計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容

活動については運用期間を継続活動とする

環境項目			実施責任者	日程	期末評価(2023.4.～2024.3)		継続 新規 区分
					評価	コメント	
二酸化炭素排出量の削減	エコ・推進ライブの	1.不必要なアイドリングの禁止	落合	使用時	○	・引き続き、営業による受注を電話・FAX等に見直し自動車の利用頻度を減らした。 ・エコカーを利用することで、燃費の向上を計っている。 ・定期点検及び給油の際にタイヤの空気圧、オイルの点検を実施している。	継続実施
		2.不要な荷物は降ろす			○		
		3.急発進・急加速の禁止			○		
		4.効率的な集配ルートとタイミングを常に検討する			○		
		5.早めにシフトアップ			○		
		6.タイヤの空気圧をチェック			○		
	購入電力の削減	1.エアコンの設定温度を夏28℃冬20℃程度に設定	落合	使用時	夏	・透明なサッシ窓に遮光フィルムを貼り省電力化を図っている。 ・ベークライトのエージングの時間を10分から8分に短縮しホットプレスの電気代を節約している。 ・台金を再生する場合の接着方法を常温接着方法に変更したことで、さらなる電気代の節約ができた。 ・全点灯はLED化済。	継続実施
		2.クールビズ・ウォームビズの実施			冬		
		3..日射を遮るため遮光対策の実施			○		
		4.未使用設備の電源OFF(空調・照明・製造設備・OA機器・他)			○		
		5.省電力密閉型電気炉の設備により、開放型ホットプレスで行っていた作業を一部移行し、電気を削減する			○		
		6.砥石と合金の分離成形後の常温接着方法の採用で、砥石成形時の電力を削減する。			○		
		7.工場内の全電灯をLED化する。			○		
	削灯減油	必要な個所にエアコンを設置する。(暖房温度20℃程度で室温管理)	落合	冬季	○	・工場内にエアコンを設置したことにより温度調整が可能になり、灯油を使用しなくなった。	終了
	生産性向上	作業に必要な材料・備品等を適切な場所に保管できる様配置を考え、移動・段取り等の効率を上げる。	石見	常時	○	・新工場を敷地内に追加して作り、梱包用品と切断設備を移動した。これにより旧工場内が広くなり、効率的な作業が可能になった。 必要な道具・治具は棚にラベルを貼り保管し、探す時間を短縮している。	継続実施
		工場・事務所で5Sを推進する。			○		
水の削減	1.水もれ点検の実施		落合	常時	○	・冷却装置にはフローインジケータを取付け、目視による節水を実施した。 ・使用した冷却水はタンクに貯め、別作業で再利用する。	継続実施
	2.節水に努める				○		
	3.研削液はタンクによる循環とし、カバー等で飛散を防ぐ				○		
廃棄物排出量の削減	1.コピー用紙の両面使用		落合	随時	○	・コピー用紙は内容に応じ、両面を使用している。 ・研磨水については、。使用量及び排水の適正管理に努め、定期的に緊急対策訓練を実施する。	継続実施
	2.封筒などの再利用				○		
	3.シュレッダー処理の削減				○		
	4.切削液・切削油の使用量の把握と排出の適正管理。研磨排水については公害防止協定の排出基準を満たすように努める。				○		
	5.金型の摩耗を把握し、新規金型への交換時期を管理		石川		○	・精度の高い金型と耐久性のある金型を自社製作し、交換時期を延すことができています。	
リサイクルの推進	1.分別による古紙、ダンボール、雑誌等のリサイクル		石川	随時	○	・古紙・ダンボール・雑誌等はリサイクルしている。 ・少量の為分別しリサイクルしている。 ・鉄の加工とアルミの加工を各専用機で行い、分別を簡単にしている。	継続実施
	2.ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル				○		
	3.鉄・アルミのリサイクル		石見		○		
製品配慮環境	ダイヤモンド工具の再利用提案		落合	随時	○	・合金再生の数量を評価するのではなく、再利用を継続していくことで、環境への配慮を行った。	継続実施
物質学	1.PRTR物質を含む材料の把握と適正管理		落合	随時	○		継続実施
	2.SDSの適正管理						

運用期間の評価は、2022年4月～2023年3月とする。

※ 評価の進捗欄 ○:良く出来た △:一部出来なかった ×:ほとんど出来なかった

代表者による全体評価・見直し記録表

実施日：2024年8月31日

代表取締役 落合嵩央

1・見直し関連状況	項 目		確認	コメント
	1	EA21文書	☒	問題なし
	2	環境及び目標達成状況	☒	○昨年度に比較して、二酸化炭素の排出量が12%減少した。特に生産設備等を更新をしていないことから、生産量の5%減少が電気代（二酸化炭素の削減）の原因と考えられる（生産量が減少しているにも関わらず売上高が昨年とほぼ変わっていないのは、単価の高い商品が増えて来たことに起因する。安価な製品を多く製造するより、高価な製品を少なく作る方が二酸化炭素排出量の削減に貢献すると推測する）。 ○水使用量は昨年より約12%減少した。金型の冷却装置にフローインジケータを取り付け、冷却時の水の流し過ぎを可視化したことで、水量削減に効果があった。 ○産業廃棄物は、廃油・廃研削液を保存する専用の保管設備を借りたことで、廃油・廃研削液への雨水の流入が防げ、全体量を減らすことができた。 ○砥石台金の再利用は、ユーザの資源再利用の希望も多く、継続して実施した。
	3	環境活動計画及び取組実施状況	☒	問題なし
	4	環境関連法規等の遵守状況	☒	問題なし
	5	外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口	☒	問題なし
	6	問題点の是正・予防処置の問題点の是正処置及び予防処置の結果	☒	問題なし
	7	その他		

2・代表者による全体評価・見直し指示	全体評価・コメント (環境経営システムの有効性、環境への取組の適切性等)		○エコアクション21の取り組みにおいて、昨年度の実績と比較すると、全ての項目において環境目標を達成することができた。しかしこれは、売上減、生産数減によるところが多く、必ずしも誇れる内容ではなかった。 ○エコアクションの実施後、設備の省電力や製造工程の見直しを12年間行ってきた。その結果、会社の売上高の増加に反し、使用電力の抑制など一定の成果が見られた。したがって、生産性の向上と環境への影響の削減は一定の成果が得られた。	
	見直し項目			指示事項等
	1	環境方針	有・ ☒	
	2	環境目標	有・ ☒	
	3	環境活動計画及び取組項目	有・ ☒	
	4	実施体制等	有・ ☒	
	5		有・無	
	6		有・無	
	7		有・無	

環境関連法規の取りまとめ

評価者 落合 崇央

遵守評価日 2024年7月31日

法律・条例	遵守事項	当社の受入対応	遵守評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の適正処理・施策協力	廃棄物の分別	○
	産業廃棄物排出委託契約	指定業者との契約確認	○
		委託業者の許可確認	○
	マニフェストの管理	A票を排出時受領 B2票・D票・E票を回収 B2票・D票 90日以内 E票 120日以内	○
	マニフェストの保管	記録の保管(5年間)	○
	マニフェスト交付状況報告書の提出	毎年6月30日迄に提出	○
	産業廃棄物保管場所への掲示板の設置	掲示板確認済	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の選任	責任者 落合 崇央	○
	産業廃棄物処理委託先の現地確認(委託前及び定期的)及び記録の保管	優良企業の現地確認は除く 記録の保管(5年間)	優良企業
騒音規制法	特定施設の設置の届出	届出済 (コンプレッサー)	○
		騒音に係る規制基準に準拠 第2種区域 昼55dB 朝夕50dB 夜間45dB	○
浄化槽法	定期点検及び水質検査		○
	保守点検 3回/年	保守点検記録の保管 2023年7月19日実施(直近)	○
	定期清掃 1回/年	清掃記録の保管 2023年1月6日実施	○
	水質検査 1回/年	水質検査記録の保管 2023年1月26日実施	○
フロン排出抑制法	対象機器の簡易点検 1回/3ヶ月	簡易点検記録の保管	○

環境法令の遵守違反の有無

当社に係る環境関連法規については法規制等の逸脱はありません。

又、違反や訴訟もありません。